

協力の大切さを学び、連帯感を深めた5日間！

5年生が雪の自然学校へ行ってきました。家族と離れて仲間と過ごす5日間、子どもたちが友達とのふれあいを通して、協力することの大切さを学びました。学年としての連帯感を深めることができるのか、そこが2か月後に立花北小学校の最高学年になる5年生にとって、最も大きな課題のひとつでした。「自分だけ、自分たちだけでなく、みんなの心に残る自然学校にしましょう」と出発式でお話して、バスに乗り込みました。

【一日目】大雪と大渋滞を乗り越えて

前日からの大雪で、高速道路が通行止めとなり、前途多難のスタートとなりました。6時間にも及ぶ長旅にも、ブツブツ言うこともなく、楽しく元気に到着した子どもたちは素晴らしかったです。開校式では、所長さんから「冬は、体調を整えるためにしっかり眠ることが大切です」というお話をいただきました。開校式が終わると、さっそく腰まで埋まる新雪で、初めての「雪遊び」を楽しみました。

協力してベッドメイキングをした後、夜の「リーダーとの交流会」では、「マイムマイム♪」を踊って盛り上がりました。一方、自分だけが集合時間に間に合っても、全員が揃わないと次のことができないことを知り、仲間と声をかけ合うの大切さをリーダーから学びました。一方、長い廊下を走ったり、滑りまくったり、大興奮で二段ベッドの上を飛び回る子がいたため、せつかくの自然学校をケガでリタイヤとはならないよう、リーダーや先生たちに厳しく叱られる場面もあった一日目でした。



【二日目】めあて『話の聞き方』と『声をかけ合って時間を守ろう』

一日目の振り返りを受けて朝の集いではリーダーから「協力し合って、楽しい時間を増やそう」というお話があり、二つのめあてが示されました。快晴に恵まれた二日目は、『歩くスキー』と『スノーシューハイク』に分かれての選択プログラムです。子どもたちは、初めて身につける装具に悪戦苦闘、友だちやリーダーに助けをもらいながら、なんとか雪原に出て行きました。どちらのプログラムでも、例年の2倍以上の新雪に、子どもたちは大苦戦しましたが、そこはさすが立北の子どもたち、みるみる上達していったようです。ただ、困った時に助けをもらったときは、ちゃんと「ありがとう」と言おう！また、説明がわかったら返事をしよう！…と副所長さんからご指導をいただきました。この日から、少しずつ気づいた子から声をかけ合う姿が見られるようになりました。夜には家にハガキを書き終えた後、一日中、雪の中でたくさんエネルギーを使った子どもたちは、この日の晩、早々と深い眠りに落ちていきました。



【三日目】めあて『返事』と『言葉づかい』

「魔の三日目」が始まりました。疲れがたまってくる時期でもあり、家が恋しくなったり、だんだんイライラがたまってもめごとが起きたりするものこの頃からです。疲れが出てくるからこそ「助け合い」と「よい声かけ」を大事にしよう！と、丸橋先生からお話がありました。あいにくの雨模様だったので、かまくらづくりを翌日に延期し、体育館での「公式雪合戦」に挑みました。相手を全滅させるか、玉をかいぐって相手のフラッグを奪取すると「勝ち」となります。最初は大活躍していたチームのエースたちが相手の作戦でやっつけられるようになると、残ったおとなしい子たちがま



わりの子たちの「行けー！」「がんばれー！」という大声援を受けて奮闘しました。審判の判定をしっかり受け入れ、負けた悔しさもグッと堪える姿に、子どもたちの成長を感じました。

雨が止んだ午後からは、もともとは予定になかった「雪像づくり」に挑みました。昨年、一昨年の子どもたちが経験できなかったスペシャルプログラムです。夜になると、班で力を合わせてつくった雪像に灯りをともし「スノーキャンドル」で、子どもたちは幻想的なひとときを楽しみました。寒い中、みんなで飲んだ温かいココアは最高に美味しかったようです。この日は、指導員さんの説明をしっかり聞けるようになったり、返事も気持ちよくできたり、「魔の三日目」を友だちと声をかけ合って乗り越えることができた5年生でした。夜の会議でも、気づいたことを友だちに声をかけてくれたり、協力してくれたりする友だちが増えたことを班長・室長の子たちも感じ始めていました。



【四日目】めあて『一致団結！』～協力してステップアップ～

四日目は、実質、大自然の中で活動できる最後の日です。メイン行事は、友だちとの真の協力が試される「かまくらづくり」でした。例年なら、一日かけてつくの大仕事ですが、雨で予定が変わったため、かまくら崩しの時間も考えると、例年より短い時間でつくらなければなりません。ところが、その逆境に燃えた5年生たちは、協力して協力して協力して、働いて働いて働いて…、なんと例年よりも大きなかまくらを造り上げたのです。中には、5人も入ることのできる大きなものをつくった班もありました。中には、昨日の経験から、かまくらの上に自分たちだけのオリジナルの雪像物をつくるなど、工夫を凝らしたかまくらもありました。途中、うまくいかないときには、子どもたち同士でアドバイスし合う姿もあちこちで見られ、先生たちはとてもうれしかったとのこと。崩してしまうのがもったいないくらい頑張った子どもたち。まさに5年生の持つ底力が発揮された場面となりました。5年生あっぱれ！



夜プロの「キャンドルサービス」は、体調を崩す子どもたちもいたため、楽しみにしていた「マイムマイム♪」は中止となりましたが、灯したろうそくの灯りを仲間やリーダーたち眺めながら、最後の夜を楽しみました。声をかけ合い協力して行動することで、自分たちで時間が生み出すことができること。そして、自分一人ではできない大きなことも成し遂げることができることを、実感した実り多き4日目となりました。

【五日目】めあて『来た時よりも美しく』

「もう少しで終わってしまうのはさみしいな」という思いと「家族にも早く会いたいな」という思いが入り混じる五日目のスタートでした。この日、5年生にとっては、後片づけと大掃除という最後の大きな仕事がありました。体調を崩した子の分まで頑張る子や片づけが苦手な友達をさりげなく手助けする子もいて、むしろ例年よりもゆとりをもって最後の「思い出のキーホルダーづくり」に取りかかることができたようです。あっぱれです！



協力することの難しさに直面した前半、そして、協力できた時の心地よさを実感できた後半。いろいろな人たちに支えられ、遠く尼崎で見守るご家族の思いをエネルギーに変え、5日間を乗り越えることができた子どもたち。学校へ到着し、帰校式に臨む姿は、少し疲れてはいたものの、ひとまわり大きくたくましく成長したように見えたのは、私だけではありません。家族の姿を見るや、ちょっと甘えたに戻るのも、5日間頑張ってきた証です。

こうして、慣れないところでも最後までやりきる経験を通して、友達との助け合いでできることや安心して過ごせることが増えること、そして、一人ではなく仲間がいたから乗り越えられることに気づくことができた子どもたちでした。何より、離れてみてわかった家族のありがたさも感じる機会になったことと思います。

間もなく6年生から「立北の顔」としてのバトンを受け継ぐ5年生には、今回の自然学校で学んだことを生かし、自分たちらしさを出しながら、立花北小を引っ張ってくれることと願っています。

今回、残念ながら参加できなかったり、途中で帰らなければならなかったりした子どもたちには、ぜひ、修学旅行でリベンジを果たしてほしいと思います。ご協力いただきました保護者の皆様には、心より感謝申し上げます。